

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education  
発行：中山 迅  
事務局：中西印刷株式会社 学会部内  
URL：<http://www.jsse.jp>

.....  
2016.12.15

NO.230  
.....

# 科学教育研究レター



## 目 次

■ 理事会だより	..... 2	■ 国際交流委員会だより	..... 10
第 273 回理事会報告		国際学会開催情報	
■ 学会賞	..... 4	国際学会参加報告 (36)	
第 40 回年会発表賞の決定		国際学会参加報告 (37)	
■ 年会	..... 6	国際学会参加報告 (38)	
第 41 回年会開催案内 (第 2 次)		■ 編集委員会だより	..... 17
■ 研究会・支部だより	..... 8	2016 年度第 1 回編集理事会報告	
2016 年度研究会開催のお知らせ		『科学教育研究』論文執筆要項改訂	
支部活動案内・報告		について	
		■ 広報委員会からのお知らせ	..... 19

## 日本科学教育学会第 273 回理事会報告（案）

（議事要録承認前、要点のみ参考掲載。）

日 時 2016年11月19日（土）14:00～17:00  
会 場 株式会社内田洋行 新川本社 7階Future Class Room  
出席者 会長 中山 迅, 副会長 吉岡亮衛  
理事 佐伯昭彦, 宮崎樹夫, 坂谷内勝, 村山 功, 久保田義彦, 三宅志穂,  
鈴木栄幸, 竹中真希子, 荻原 彰, 大谷 忠  
監事 片平克弘  
事務局長 吉川 厚  
年会 林 敏浩, 松寄昭雄  
庶務担当幹事 川上 貴

### 1. 議事要録（案）の承認

○第 272 回理事会議事録（案）を承認した。

### 2. 第 273 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により、8月31日までに入会を希望した6名とシニア会員を希望した1名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（9月5日）。

○事務局からの発議により、9月30日までに入会を希望した5名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（10月5日）。

○庶務からの発議により、編集理事会メンバーを電子会議により審議した結果、理事全員の承認が得られ、原案通りに決定した（10月17日）。

○事務局からの発議により、10月30日までに入会を希望した8名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（11月7日）。

### 3. 報告事項

#### 1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

#### 2) 経理・会員

○新規入会会員について報告があった。

#### 3) 機関誌編集

○「科学教育研究」の編集状況、投稿及び掲載決定状況等について報告があった。

#### 4) 学会賞

○年会発表賞の投票状況について報告があった。

#### 5) 支部・研究会

○研究会年間計画および進行状況について報告があった。

#### 6) 調査研究・学術交流

○第 41 回年会のシンポジウムについて、年会企画委員会と調査研究委員会と協議する旨の報告があった。

## 7) 国際交流

○ICASE2016 (Antalya, Turkey from 1-5 November, 2016) の参加について報告があった。

## 8) 年会企画

○第 41 回年会の準備状況について報告があった。

## 9) 若手活性化

○第 40 回年会「若手ワークショップ」について報告があった。

○第 4 回研究会（若手活性化委員会開催）の準備状況について報告があった。

## 10) 庶務

○メール審議の手順について報告があった。

## 11) その他

○「日本科学教育学会研究会研究報告」等の論文のデータベース作成のための科研費申請を行った旨の報告があった。

## 4. 協議事項

### 1) 退会希望者等について

○退会希望者 1 名の承認について承認した。

現在会員数 1,425 名（正会員 1,231 名，学生会員 139 名，名誉会員 16 名，公共会員 1 名，賛助会員 4 名，シニア会員 34 名）（2016 年 11 月 1 日付）

（前回理事会：会員数 1,411 名（正会員 1,216 名，学生会員 141 名，名誉会員 16 名，公共会員 1 名，賛助会員 4 名，シニア会員 33 名）（2016 年 8 月 10 日付））

### 2) 年会発表賞候補の推薦について

○年会発表賞の表彰について，発表の時点で会員であるかどうかにかかわらず，年会発表の当該年度に会員である者を表彰対象とすることを承認した。

○第 40 回年会発表賞候補の中から以下の 5 件の論文が推薦され承認した。

・ 1A1-H3 「タンジブルインタフェースを用いた科学博物館における来館者の古生物展示鑑賞支援システムの開発と評価」 江草遼平（日本学術振興会特別研究員／神戸大学）他

・ 3G1-A4 「中学校理科教師の専門的成長に関する質的研究 授業研究から何を学ぶのか」 越智拓也（広島大学大学院）他

・ 1G1-A4 「高レベル放射性廃棄物処分の教材化」 田中大樹（三重大学大学院教育学研究科）他

・ 1A2-G3 「科学の考え方に注目したアクティブラーニング—NHK E テレ「考えるカラス」連動ワークショップを例に—」 加納 圭（滋賀大学大学院教育学研究科／京都大学物質—細胞統合システム拠点）他

・ 2G1-B4 「PBL 導入教材としてのマンガケース教材の提案」 高橋 聡（東京理科大学）他

### 3) 第 40 回年会決算書の提案について

○第 40 回年会の決算書について提案があり，承認した。

## 5. 次回以降の理事会予定

・ 第 274 回：2017 年 3 月 18 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

・ 第 275 回：2017 年 6 月 17 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

## 第 40 回 年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では、第 40 回年会発表賞について、会員からの推薦にもとづいて慎重に審議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。平成 28 年 11 月 19 日に開催された第 273 回理事会の議を経て、下記 5 件に対して 2017 年度年会発表賞を授与することを決定しました。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

### 【年会発表賞】

発表者：江草遼平（神戸大学，日本学術振興会特別研究員），街道梨沙（神戸大学），斎藤万智（ヤフー株式会社），楠房子（多摩美術大学），稲垣成哲（神戸大学）

発表論文：タンジブルインタフェースを用いた科学博物館における来館者の古生物展示鑑賞支援システムの開発と評価，第 40 回年会論文集，pp. 41-44，2016.

選定理由：

本研究では、博物館が所蔵する実物の標本と ICT システムを結びつけて、一人一人のストーリーで観察・学習可能なシステムが提案され、展示学習支援効果の観点からシステムの有効性が検証されている。今後、システムの充実により研究及び社会貢献の進展が期待できる。また、視覚的に分かりやすいプレゼンテーションが評価された。

発表者：越智拓也（広島大学大学院），上田裕太（吉富町外一市中学校組合立吉富中学校），磯崎哲夫（広島大学大学院教育学研究科）

発表論文：中学校理科教師の専門的成長に関する質的研究：授業研究から何を学ぶのか，第 40 回年会論文集，pp. 343-344，2016.

選定理由：

本研究は、理科の授業研究において教師が何を学ぶのかという課題について、中学校理科教師を対象とした質問紙調査の回答分析から明らかにしようとしている。その意義は大きく、今後、研究の新規性・累積性を高めていくことにより更なる進展が期待できる。

発表者：田中大樹（三重大学大学院教育学研究科），平賀伸夫（三重大学教育学部）

発表論文：高レベル放射性廃棄物処分の教材化，第 40 回年会論文集，pp. 217-218，2016.

選定理由：

本研究では、高レベル放射性廃棄物処分の教材化が取り組まれている。高レベル放射性廃棄物処分については社会的な関心が高く、その教材化には意義がある。今後、本研究の教材に基づく高レベル放射性廃棄物処分に関する教育実践を通じて、本教材の効果や有効性の特定、指導法や評価法の開発などが期待される。

発表者：加納 圭（滋賀大学大学院教育学研究科，京都大学物質-細胞統合システム拠点），水町衣里（京都大学物質-細胞統合システム拠点，大阪大学コミュニケーションデザイン・センター），塩瀬隆之（京都大学総合博物館），ヘイチク パヴェル（日本科学未来館），岡本雅子（京都大学高等教育研究開発推進センター），佐々木孝暢（天津市立小松小学校），西田賢仁（天津市立瀬田南小学校），竹内慎一（NHK エデュケーショナル）

発表論文：科学の考え方に注目したアクティブラーニング～NHK Eテレ「考えるカラス」連動ワークショップを例に～，第40回年会論文集，pp. 57-58，2016.

選定理由：

本研究では，NHK-ETVの番組「考えるカラス」とリンクして，科学の考え方にに関するアクティブラーニングの教育プログラムが先駆的に開発され，このプログラムに基づく授業やワークショップが実践されている．学校教育とサイエンスコミュニケーションを結びつける優れた実践的研究である．今後，開発されたプログラムによる教育効果の評価法開発などが期待される．

発表者：高橋 聡（東京理科大学），高橋 B. 徹（東京理科大学），吉川 厚（東京工業大学）

発表論文：PBL 導入教材としてのマンガケース教材の提案，第40回年会論文集，pp. 301-302，2016.

選定理由：

本研究では，マンガケースメソッドを利用してPBLの学習をさせる教授法が開発・試行されている．問題解決ツリーやトゥールミンモデルを導入した学習活動には，アクティブラーニングの実施方法についての重要な提案として意義がある．今後，開発された教授法の実践を通じて有効性と限界が特定されることが期待される．

第 41 回年会 開催案内 (第 2 次)

1. 日程 : 2017 年 8 月 29 日 (火) ~ 8 月 31 日 (木) (3 日間)

2. 会場 : サンポート高松

〒760-0019 香川県高松市サンポート 2 番 1 号

(<http://www.sunport.or.jp/>)

3. スケジュール概要

29 日 (火) 午前 : 課題研究・一般発表

午後 : 課題研究・一般発表 / インタラクティブセッション

30 日 (水) 午前 : 課題研究・一般発表

午後 : (代議員総会) / シンポジウム / 懇親会

31 日 (木) 午前 : 課題研究・一般発表

午後 : 課題研究・一般発表

4. 発表申込等について

今回は主要な締切のみ先行してお知らせします。

(1) 課題研究発表の申込・原稿提出

企画受付締切 : 2017 年 5 月 2 日 (火)

原稿提出締切 : 2017 年 6 月 30 日 (金)

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

原稿提出締切 : 2017 年 6 月 30 日 (金)

5. 連絡先 : 日本科学教育学会第 41 回年会実行委員会

〒761-0396

香川県高松市林町 2217-20

香川大学総合情報センター (工学部分室)

林敏浩

E-mail : hayashi [at mark] eng.kagawa-u.ac.jp

6. 年会実行委員会

【実行委員長】林 敏浩 (香川大学), 【副委員長】笠 潤平 (香川大学), 【実行委員】村井 礼 (香川大学), 八重樫理人 (香川大学), 後藤田中 (香川大学), 藤本憲市 (香川大学), 秋田美代 (鳴門教育大学), 佐伯昭彦 (鳴門教育大学), 早藤幸隆 (鳴門教育大学), 金児正史 (鳴門教育大学), 隅田 学 (愛媛大学), 大橋淳史 (愛媛大学), 中城 満 (高知大学)

## 7. 年会企画委員会

【委員長】松寄昭雄（埼玉大学），【副委員長】瀬戸崎典夫（長崎大学），日野圭子（宇都宮大学），【担当理事】大谷 忠（東京学芸大学），加藤久恵（兵庫教育大学），【幹事】向 平和（愛媛大学），【企画委員】泉 直志（鳥取大学），大野美喜子（産業技術総合研究所），川上 貴（西九州大学），北島茂樹（明星大学），木村優里（NPO法人東京学芸大こども未来研究所），小泉健輔（高崎健康福祉大学），島田和典（大分大学），高井吾朗（愛知教育大学），高藤清美（筑波学院大学），高橋一将（北海道教育大学），高橋 聡（東京理科大学），竹中真希子（大分大学），野添 生（宮崎大学），服部裕一郎（高知大学），林 敏浩（香川大学），谷塚光典（信州大学）

四国はひとつ，実行委員会の総力を挙げて第 41 回年会を盛り立てていく所存です．多数の皆様のご参加，ご来県を心よりお待ちしております．

第 41 回年会実行委員長 林 敏浩（香川大学）

2016 年度研究会開催のお知らせ

下記 2 件の研究会開催案内を掲載する。

- (1) 第 5 回日本科学教育学会研究会（南関東支部開催）平成 29 年 3 月 18 日（土）
- (2) 第 6 回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）平成 29 年 4 月 15 日（土）

研究会に関する情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご覧ください。

(1) 平成 28 年度第 5 回日本科学教育学会研究会（南関東支部開催）

[テーマ] 科学教育温故知新

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 平成 29 年 3 月 18 日（土） 10:00～15:30（予定）

[会場] 千葉大学教育学部 2 号館 2111 / 2112

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

[対象] 会員，教員，学生，社会人

[参加] 参加費は無料です。

会員，非会員にかかわらず，どなたでも参加できます。

[申込み先] 平成 28 年度 第 5 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：平田昭雄

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学

自然科学系 理科教育学研究室

Tel & Fax: 042-329-7545

E-mail: hirata [at mark] u-gakugei.ac.jp（平田）

[発表申込・原稿締切]

発表者は本学会員のみです。連名の発表の場合には、連名者のうち少なくとも 1 人が会員である必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を

hirata [at mark] u-gakugei.ac.jp（企画編集委員：平田昭雄／東京学芸大学）までお送りください。

発表申込〆切は、平成 29 年 1 月 13 日(金)です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿送付〆切は、平成 29 年 2 月 17 日(金)です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 南関東支部長 鎌田正裕（東京学芸大学）

(2) 平成 28 年度第 6 回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）

[テーマ] 科学教育不易流行

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 平成 29 年 4 月 15 日（土） 10：00～15：30（予定）

[会場] 埼玉大学教育学部

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255

[対象] 会員，教員，学生，社会人

[参加] 参加費は無料です。

会員，非会員にかかわらず，どなたでも参加できます。

[申込み先] 平成 28 年度 第 6 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：二宮裕之

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255 埼玉大学教育学部

Tel & Fax: 048-858-3204

E-mail: hiro2001 [at mark] mail.saitama-u.ac.jp

[発表申込・原稿締切]

発表者は本学会員のみです。連名の発表の場合には，連名者のうち少なくとも 1 人が会員である必要があります。発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします。

発表を希望される方は，氏名，所属，発表題目，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所，使用機器 を明記した E-mail を

hiro2001 [at mark] mail.saitama-u.ac.jp（企画編集委員：二宮裕之／埼玉大学）までお送りください。

発表申込〆切は，平成 29 年 2 月 17 日(金)です。

発表原稿様式等については，発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿送付〆切は，平成 29 年 3 月 10 日(金)です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 北関東支部長 人見久城（宇都宮大学）

国際学会開催情報

今後、下記の国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

International Science Education Conference 2017

開催地：Maui, Hawaii, USA

期 間：2017年1月1日-5日

<http://scienceeducationhawaii.com>

ASE (the Association for Science Education) Annual Conference 2017

開催地：University of Reading, UK

期 間：2017年1月4日-7日

<http://www.ase.org.uk/conferences/annual-conference/>

SITE 2017 (Society for Information Technology and Teacher Education)

開催地：Austin, USA

期 間：2017年3月5日-9日

締切等：2017年2月6日 (Early Bird 参加申込)

<http://site.aace.org/conf/>

ITEEA2017(The 79th Annual Conference, International Technology and Engineering Educators Association)

開催地：Dallas, USA

期 間：2017年3月16日-18日

締切等：2017年2月15日 (Early Bird 参加申込)

[https://www.iteea.org/Activities/Conference/ITEEA\\_Conference\\_2017.aspx](https://www.iteea.org/Activities/Conference/ITEEA_Conference_2017.aspx)

Digital World 2017

開催地：Nice, France

期 間：2017年3月19日-23日

<http://en.meet-in-nice.com/agenda/event/6173-digitalworld-2017>

NSTA (National Science Teachers Association) 2017

開催地：Los Angeles, USA

期 間：2017年3月30日-4月2日

<https://www.nsta.org/conferences/national.aspx>

NCTM Research Conference 2017 (National Council of Teachers of Mathematics)

開催地 : San Antonio, USA

期 間 : 2017年4月3日-5日

締切等 : 2017年2月24日 (Early Bird 参加申込)

<http://www.nctm.org/Conferences-and-Professional-Development/Research-Conference/>

NCTM Annual Meeting & Exposition 2017 (National Council of Teachers of Mathematics)

開催地 : San Antonio, USA

期 間 : 2017年4月5日-8日

締切等 : 2017年2月24日 (Early Bird 参加申込)

<http://www.nctm.org/Conferences-and-Professional-Development/Annual-Meeting-and-Exposition/>

NexComm 2017

開催地 : Venice, Italy

期 間 : 2017年4月23日-27日

<http://www.iaria.org/conferences2017/NexComm17.html>

NARST 2017 Annual International Conference

開催地 : San Antonio, USA

期 間 : 2017年4月22日-25日

AERA Annual Meeting (American Educational Research Association)

開催地 : San Antonio, USA

期 間 : 2017年4月27日-5月1日

ICMT 2 (International Conference on Mathematics Textbook Research and Development)

開催地 : Rio de Janeiro, Brazil

期 間 : 2017年5月7日-11日

締切等 : 2017年1月31日 (Early Bird 参加申込)

<http://www.sbm.org.br/icmt2/>

InfoSys 2017

開催地 : Barcelona, Spain

期 間 : 2017年5月21日-25日

<http://www.iaria.org/conferences2017/InfoSys17.html>

CSCL2017 (International Conference on Computer Supported Collaborative Learning)

開催地 : Philadelphia, USA

期 間 : 2017年6月20日-22日

<https://cscl17.wordpress.com>

EdMedia2017 (World Conference on Educational Media and Technology)

開催地 : Washington, DC

期 間 : 2017年6月21日-23日

締切等 : 2017年5月25日 (Early Bird 参加申込)

<https://www.aace.org/conf/edmedia/call/>

ICTMT 13 (The 13th International Conference on Technology in Mathematics Teaching)

開催地 : Lyon, France

期 間 : 2017年7月3日-6日

締切等 : 2017年2月15日 (投稿), 2017年3月22日 (Early Bird 参加申込)

<https://ictmt13.sciencesconf.org/>

International Conference on Education and Information Systems, Technologies and Applications (EISTA 2017)

開催地 : Orlando, Florida, USA

期 間 : 2017年7月8日-11日

以下の学会と共催

The 11<sup>th</sup> International Multi-Conference on Society, Cybernetics, and Informatics: IMSCI 2017

The 21<sup>st</sup> World Multi-Conference on Systemics, Cybernetics and Informatics: WMSCI 2017

The 10<sup>th</sup> International Multi-Conference on Engineering and Technological Innovation: IMETI 2017

<http://www.iiisconferences2017.org/eista>

PME 41 (International Group for the Psychology of Mathematics Education)

開催地 : Singapore

期 間 : 2017年7月17日-22日

<http://www.igpme.org/index.php/annual-conference>

ESERA (European Science Education Research Association)

開催地 : Dublin, Ireland

期 間 : 2017年8月21日-25日

締切等 : 2017年1月31日 (投稿), 2017年4月14日 (Early Bird 参加申込)

<https://www.eiseverywhere.com//ehome/129430>

21<sup>st</sup> International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (KES2017)

開催地 : Marseille, France

期 間 : 2017年9月6日-8日

<http://kes2017.kesinternational.org>

E-LEARN 2017 - World Conference on E-Learning

開催地：Vancouver, Canada

期 間：2017年10月17日-20日

<https://www.aace.org/conf/elearn/>

## 国際学会参加報告 (36) - IJAS (International Journal of Arts & Sciences) -

2016年7月15日～18日にかけて、イタリアのローマにある British School at Rome (BSR)で開催された International Journal of Arts & Sciences' (IJAS)'s annual conference に参加した。IJAS 国際会議は、ハーバード大学、ロンドン大学などヨーロッパと北米のいくつかの都市で毎年行われる。参加者は、北米やヨーロッパ以外からもアジア系、中東系、アフリカ系、様々な国の研究者が参加していた。主催者の挨拶によれば、この会議には3つの目標があるとのことだ。一つめはアカデミックな研究成果を学際的な場で発表する機会を提供することである。二つめは、国際交流を通して非公式なフィードバックを得て、持続的な国際的研究のパートナーシップを構築することである。三つめは、学生が留学する前に、学際的な研究者らと対話をできる機会を提供することである。編集委員会は、社会科学と人文科学、ビジネスと経済学、教育、および科学技術の4分野に分かれている。今回私は教育の分野でネットいじめをテーマに発表してきた。

この国際会議の特徴は、幅広い学際的な研究分野の研究者が集まっている点である。元々は Harvard University の Faculty of Arts & Sciences が主体となっており、必ず毎年 Harvard University で開催されている。類似の名称の組織は世界中にあり、主に類似した名称の学部で開催されている。私の所属の英語名称は Yamagata University, Institute of Arts and Sciences であり、和名称は基盤教育院あるいは学術研究院である。The University of Tokyo の場合は College of Arts and Sciences という組織があり、和名称は教養学部となっている。しかしながら、Faculty of Arts & Sciences に類する所属でなければ参加できないわけではなく、誰でも参加することができる。

Journal への投稿を目指している参加者は、まず、国際会議へ参加する前にアブストラクトを提出する。テーマや内容が論文に相応しいかどうか、アブストラクト査読を受ける。アブストラクト査読をパスすれば、誰でも発表することができる。国際会議で発表すると、質疑応答を通して Journal への投稿に際してのアドバイスや示唆を受けることができる。発表者は、質疑応答から得た示唆を反映させ、1ヶ月以内程度の期間に Harvard University の書式に沿った論文を仕上げなければならない。顔の見えない誤解を孕んだ一方的な査読ではなく、誤解があれば口頭で説明することができ、納得のいく審査を受けることができる点がこの国際会議のメリットと言えるであろう。

アカデミックな議論をすることが国際会議の目的であるが、目的の2つめにあるように、世界中の研究者と国際交流することももう一つの柱である。交流をしながら郊外へ散策に出かけたときの集合写真が下記である。



(山形大学学術研究院・加納寛子)

### 国際学会参加報告 (37)

#### - The ICASE (International Council of Associations for Science Education) 2016 Conference -

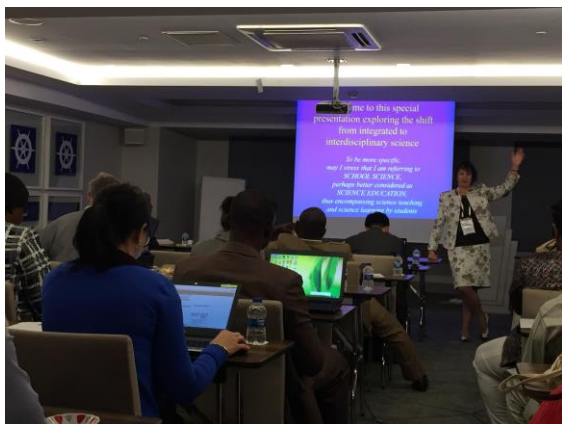
2016年11月1日から5日にかけて、トルコのアンタルヤでThe 5<sup>th</sup> ICASE World Conferenceが開催された。ICASEは、世界の科学教育学会・教育機関・非営利組織等による協議会で、日本科学教育学会はそのメンバーとして加盟している。現在、私（隅田）がアジア代表理事を務めている。今回は、日本から、本学会理事国際交流副委員長の山下修一先生（千葉大学）と私が参加し、口頭発表を行った。

ICASEは、1973年の設立当初より、UNESCOと強い連携を持っており、本大会でもNatural Sciences SectorのDr. Flavia Schlegel博士をはじめとして、Education SectorのMs. Julia Heiss氏などもスカイプを通じて特別講演を行った。23カ国から100名を超える参加者が集まり、その発表内容や交流の多様性が本協議会、大会の重要な特徴の一つである。学術的な研究発表から、身近で安価な素材を用いた教材ワークショップ、教員研修的な安全教育ワークショップ、学会誌の投稿状況や準備に関わるワークショップなど、趣向を凝らした5日間の大会であった。

ICASE大会は3年に一度開催される。そこでは、大会期間中に参加者がグループに分かれて議論を行い、最終日に、次の3年間の指針としての宣言を行う（これは、ICASE World Conference Declarationsと呼ばれる）。今大会も、大会中に参加者が4つのグループに分かれて議論を行い、理事がその議論を整理して、最終日にアンタルヤ宣言が提案された。その副題は、「Interdisciplinary Practices in Science and Technology Education（科学技術教育の学際的実践）」で、多様な教育内容、文脈、教員養成・教師教育、各種連携機関などを越境する科学技術教育の推進が謳われている。今後は、この宣言がICASEのウェブに掲載され、コメントを受け付けた後に最終版が作成され

る予定である。

3年後（2019年）の第6回大会は、インドにて開催予定である。アジア開催ということで、本学会としても連携・協力しながら大会を盛り上げていくことが期待されている。



ICASE 企画のワークショップ



口頭発表

(愛媛大学・隅田 学)

### 国際学会参加報告 (38)

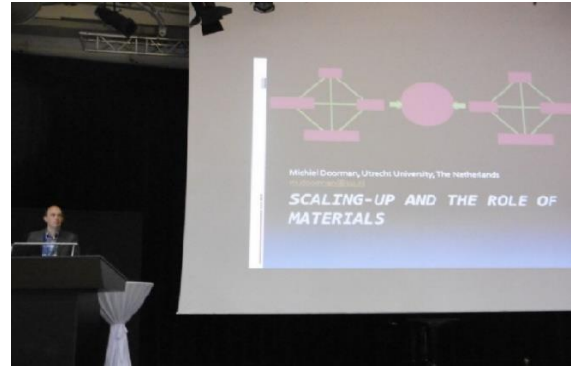
#### – Mascil (Mathematics and science for life) Final Conference –

2016年11月7日から8日にドイツのバーデン=ヴュルテンベルク州フライブルグにおいて、EUにおける数学教育と科学教育のプロジェクトである“Mathematics and science for life”（略称 Mascil）の最終会議が、ドイツ数学教師教育センター（Deutsches Zentrum für Lehrerbildung Mathematik, 略称 DZLM）との共催で開催された。本国際会議のテーマは、2014年12月の Mascil 中間会議を引き継ぎ“Educating the Educators II”であり、教員養成や教員研修に携わる者を含めた数学と科学の教育者の教育であった。ヨーロッパ21か国を含む31か国から参加者があった。

Mascil は、EU の第7次研究・技術開発枠組み計画（FP7）に基づき2013年から4年計画で行われており、今年が最終年にあたる。ドイツ、ギリシア、オランダ、イギリス、スペイン、キプロス、ノルウェー、ルーマニア、チェコ、トルコ、リトアニア、オーストリア、ブルガリアの13か国の約50名がこのプロジェクトに参加している。Mascil の目的は、初等中等学校において「探究に基づく科学の指導」（inquiry-based science teaching）の普及を促進することであり、学校における「探究に基づく科学の指導」を「職場の世界」（the World of Work）と関連付けることで、ヨーロッパの児童生徒にとって科学をより意義あるものとし、児童生徒の興味を科学技術のキャリアに向けることをねらっている。



会場となったフライブルク教育大学



基調講演の様子

本会議の基調講演は、次の3名によってなされた。Alan Schoenfeld氏（カリフォルニア大学バークレー校）は、数学教育の職能開発に関する氏のプロジェクトからの示唆を与え、Olaf Köller氏（ライプニッツ科学教育研究所）は、ドイツにおける大規模な職能開発プロジェクトの実例とその成果を紹介し、Michiel Doorman氏（ユトレヒト大学）は、職能開発の規模を国を越えて広げる際の教材の要件や役割について論じた。さらに本会議では、3件の研究・実践インタラクティブセッション、3件のディスカッショングループ、38件の論文発表があり、これらの活動は、個人、教材、組織という3つの次元で構成されていた。その他、21件の教材マーケットや16件のポスター発表があった。

11月9日は、“early career researchers’ day”として、数学教育と科学教育の職能開発についての研究内容と研究方法に焦点を絞ったワークショップが開催された。Susanne Prediger氏（ドルトムント工科大学）が研究内容について、Rekka Stahnke氏（フンボルト大学）が研究方法の質的側面、Michael Besser（フライブルク教育大学）がその量的側面について担当した。

英国のEU離脱問題はもとより、経済危機や移民問題等に端しEUの統合深化の実現には様々な課題がある。本国際会議への参加を通じて、Mascilプロジェクトが、数学教育と科学教育の職能開発を国を越えて共に行うことで、こうした苦境を乗り越え、地域間格差の是正を始めとするEUの統合深化の実現と、科学技術の優位性確保によるEUの持続可能な経済成長を目指していることを目の当たりにした。日本とEU諸国の状況は異なるけれども、日本の数学教育と科学教育に多くの示唆をもたらす会議であった。

（金沢大学人間社会研究域学校教育系・伊藤伸也）

2016年度第1回編集理事会報告

2016年11月19日(土) 11:00~13:30, 2016年度第1回編集理事会が内田洋行新川本社3階において開催された。

まず、「科学教育研究」の編集状況の報告が行われた。新規投稿論文(2016.8.1~2016.10.31):29編(内訳:和文29編,英文0編),査読中論文(2016.10.31現在):40編(内訳:担当編集委員選定中:6編,査読員選定中:1編,査読中(1回目):19編,総合判定中(1回目):2編,改訂稿待ち:2編,査読中(2回目):9編,編集委員長による最終判定中:1編),掲載決定論文(2016.8.1~2016.10.31現在):6編(内訳:研究論文3編,資料2編,総説展望1編(通算合計40-4:7編,41-2:1編))。

次に,第41巻特集「科学教育におけるアクティブ・ラーニング」についての進捗報告があった。9月末の締め切りまでに投稿された論文は21本(採録決定1本,審査中17本,受理作業中3本)であり,招待論文が1本あることが報告された。

更に,「科学教育とは」の企画,J-STAGE関連2件の報告があり,次期特集号のテーマ,CiNiiからJ-STAGEへのデータ移行作業,執筆要項改訂等について議論を行った。

次回,2016年度第2回編集理事会は,2017年3月18日(土),11:00~14:00,場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成28年10月31日現在)

	新規投稿論文数(編)		審査中(編)		掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2015年 11月	5	0	36	1	4(40-1) 0(40-2)	1(40-1) 0(40-2)	0		3	1
2015年 12月	4	0	35	1	2(40-1) 0(40-2)	0(40-1) 0(40-2)	0		3	0
2016年 1月	6	0	31	1	3(40-1) 1(40-2)	0(40-1) 0(40-2)	0		5	1
2016年 2月	3	0	27	1	2(40-2) 0(40-3)	0(40-2) 0(40-3)	0		5	0
2016年 3月	8	0	22	1	5(40-2) 0(40-3)	0(40-2) 0(40-3)	0		8	0
2016年 4月	2	0	22	0	1(40-2) 0(40-3)	1(40-2) 0(40-3)	0		1	0
2016年 5月	4	0	20	0	1(40-2) 3(40-3)	0(40-2) 0(40-3)	0		2	0
2016年 6月	10	0	26	0	2(40-3) 0(40-4)	0(40-3) 0(40-4)	0		2	0
2016年 7月	4	0	23	0	0(40-3) 2(40-4)	0(40-3) 0(40-4)	0		4	1
2016年 8月	4	0	22	0	0(40-3) 2(40-4)	0(40-3) 0(40-4)	0		3	0
2016年 9月	19	0	41	0	0(40-3) 0(40-4)	0(40-3) 0(40-4)	0		0	0
2016年 10月	6	0	40	0	3(40-4) 1(41-2)	0(40-4) 0(41-2)	0		3	0

招待論文については,新規投稿数,審査中論文数に加えておりません

## 『科学教育研究』論文執筆要項改訂について

執筆要項が改訂されました。主な変更点は、引用文献・参考文献の記載方法の変更と、二重投稿に関する規程の追加です。詳細は学会ウェブサイトでご確認ください。

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 230 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：	森田裕介（早稲田大）	舟生日出男（創価大）	
委員：	高橋 B. 徹（東京理科大）	村山 功（静岡大）	三宅志穂（神戸女学院大）
	鈴木栄幸（茨城大学）	荻原 彰（三重大）	大寫竜午（千葉大）
	向 平和（愛媛大学）	辻 宏子（明治学院大）	
幹事：	石崎友規（常磐大）	内ノ倉真吾（鹿児島大）	
	辻山洋介（千葉大）	小松孝太郎（信州大）	

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会